

ネター整域の素イデアル鎖について

香川大教育 藤田和憲

最近、小野田司氏により *catenary* でない *noetherian normal domain* の例が構成された (この考究録の「擬幾何学的環の *formal fibre* による素イデアル鎖条件の判定」). 従って Ratliff が提出した *chain conjecture*: 「*noetherian local domain* の *integral closure* は *chain condition* を満たす」は否定的に解かれたことになった.

ここでは Ratliff の著書 *Chain conjecture in ring theory* (Lecture Note 647 Springer) を参考にして、素イデアル鎖問題の経緯および Nagata, Ratliff 等の得た結果のいくつかについて要約する. 以下 *ring* はすべて *noetherian ring* あるいは *noetherian domain* の *almost finite integral extension* とする. 素イデアル鎖について詳しくは、方も平易に読めるように定義から始める.

定義 環 R の素イデアル鎖 $\mathfrak{P}_0 \subset \mathfrak{P}_1 \subset \dots \subset \mathfrak{P}_n$ が saturated

$$\Leftrightarrow \forall i \leq n \quad \text{ht } \mathfrak{P}_i / \mathfrak{P}_{i-1} = 1$$

$\mathfrak{P}_0 \subset \mathfrak{P}_1 \subset \dots \subset \mathfrak{P}_n$ が saturated であり、 \mathfrak{P}_0 が maximal ideal, \mathfrak{P}_n が minimal prime ideal のとき、 $\mathfrak{P}_0 \subset \mathfrak{P}_1 \subset \dots \subset \mathfrak{P}_n$ を maximal chain という。

定義 環 R が catenary

$$\Leftrightarrow R \text{ の prime ideals } \mathfrak{P}, \mathfrak{P}' \text{ (} \mathfrak{P} \supset \mathfrak{P}' \text{)} \\ \text{について } \mathfrak{P} \text{ と } \mathfrak{P}' \text{ の間の saturated} \\ \text{chain の長さは一定}$$

すぐわかるように R が domain のときは 次の条件 (i) あることは (ii) と同値になる。

- (i) $\forall \mathfrak{P}, \mathfrak{P}' \in \text{Spec}(R)$ s.t. $\mathfrak{P} \supset \mathfrak{P}'$ について $\text{ht } \mathfrak{P} = \text{ht } \mathfrak{P}' + \text{ht } \mathfrak{P}'_{\mathfrak{P}}$
- (ii) $\text{ht } \mathfrak{P}_{\mathfrak{P}} = 1$ なる R の任意の prime ideals $\mathfrak{P}, \mathfrak{P}'$ について、 $\text{ht } \mathfrak{P} = \text{ht } \mathfrak{P}' + 1$

よく知られてゐるように、体 k 上の affine ring $k[x_1, \dots, x_n]$ とか、regular local ring は catenary である。

また、catenary ring の homomorphic image は catenary である。従つて I.S. Cohen の Structure theorem of complete local rings (*)、complete local

ring は catenary [ある = と] かわかる。これらのことから自然に次の問が生じる。

noetherian ring は catenary か?

これは長い間解けなかつた問題であった。[1]にも同様の問が示されている。上の問は 1956 年に Nagata によって否定的に解かれた。catenary [でない] noetherian domain の例が示された [4]。今度、小駒氏の例が出るまでに、catenary [でない] noetherian ring の例は、本質的に Nagata の構成したものだだけであった。Nagata は次に示すような domain R' および、その subring R を作った:

$(R', \mathfrak{m}_1, \mathfrak{m}_2)$ は 体 K を含む semi local domain で 次の (i) ~ (iii) を満たす。 (i) $ht \mathfrak{m}_1 = m+1$, $ht \mathfrak{m}_2 = r+m+1$ に $r > 0$, $m \geq 0$ (ii) $R'_{\mathfrak{m}_1}$, $R'_{\mathfrak{m}_2}$ は regular local rings. (iii) $R'_{\mathfrak{m}_1} = K$, $R'_{\mathfrak{m}_2} = K$. $\mathfrak{m} = \mathfrak{m}_1 \cap \mathfrak{m}_2$, $R = K + \mathfrak{m}$ とおく。このとき (R, \mathfrak{m}) は noetherian local domain [\mathfrak{m} 次のいくつかの変った性質をもつ (a) R' は R の integral closure 従って (R, \mathfrak{m}) の integral closure は 高さの異なる maximal ideals をもつ。 (b) R' の maximal ideal \mathfrak{m}_1 の高さは $m+1$ であるが、 \mathfrak{m}_1 を R に落した maximal ideal \mathfrak{m} の高さは、 $m+r+1$ 。よって、 $ht \mathfrak{m}_1 < ht \mathfrak{m}_1 \cap R$. (c) $m > 0$ のとき、 R に

は、 $\{0\}$ と m の間に長さ $m+1$ および $r+m+1$ の saturated chain がある。従って R は catenary ではない。(d) $m=0$ のとき R は catenary であるが、 R 上一変数多項式環 $R[X]$ は catenary ではない。

この例の $m>0$ のときの R の integral closure と $m=0$ のときの $R[X]$ の integral closure は局所的に regular local ring であるから catenary である。このことが主な理由で次の向が生じる

noetherian normal domain は catenary か?

noetherian domain の integral closure は catenary か?

Ratliff はこれを解くべくかなり努力した。彼の Lecture note の p.20 にあるように、彼は上の向は成立すると考えていたと思える。小駒氏はこの向に対する反例を与えた。

次にいくつかの素イデアル鎖の条件のうちから主に second chain condition について書く。まず定義から:

~~定義~~ ring R が first chain condition for prime ideals を満たす。(略して f.c.c. を満たす)

\Leftrightarrow

R の任意の maximal な素イデアル鎖の
長さは $\dim R$ に等しい

定義 ring R が second chain condition for
prime ideals (略して s.c.c.) をみたす.

 \Leftrightarrow

R の任意の minimal prime ideal \mathfrak{P} に
対して R の任意の integral extension
は f.c.c. をみたす.

定義 domain R が altitude formula をみたす

 \Leftrightarrow

R を含む任意の finitely generated domain
 A について $\forall \mathfrak{P} \in \text{Spec}(A)$

$$\text{ht } \mathfrak{P} + \text{tr. deg}_{R/\mathfrak{P}} A/\mathfrak{P} = \text{ht } \mathfrak{P} + \text{tr. deg}_R A$$

定義 ring R が universally catenary

 \Leftrightarrow

R 上任意の finitely generated algebra
は catenary

前の Nagata の例で $m=0$ の R は first chain condition
をみたすが、second chain condition はみたさない。

またその R は *universally catenary* でもない.

定理 (R, \mathfrak{m}) を *local domain* とすると 次は 同値である.

- (1) R は *quasi unmixed* i.e. R の completion \widehat{R} は *f.c.c.* を満たす.
- (2) R は *altitude formula* を満たす
- (3) R は *s.c.c.* を満たす.
- (4) R は *universally catenary*
- (5) $R[X]$ は *catenary*
- (6) R の *integral closure* は *s.c.c.* を満たす.
- (7) R の *henselization* は *s.c.c.* を満たす
- (8) R の *henselization* は *f.c.c.* を満たす

注意 *henselian local ring* については *f.c.c.* を満たす
 \Leftrightarrow *s.c.c.* を満たす.

(1) \Rightarrow (3) は [4] で示された. (1) \Rightarrow (2) は [5] に原形があり [6] で完全にはった. Ratliff の論文 [7] の一つの特徴は、(2) \Rightarrow (1) と (3) \Rightarrow (1) を証明した点である. [7] のもう一つの特徴は (1) \Leftrightarrow (5) を示した点である.

Ratliff の *lecture note* には、これらも含めて 32 個の同値

な命題が示されている。そのうちから多少表現において異っているものを2つ書き加える。

(9) $(m, \mathfrak{y})R[\mathfrak{y}] \subsetneq R[\mathfrak{y}]$ をみたす R の商体の任意の元 \mathfrak{y} に対して、 $R[\mathfrak{y}]_{(m, \mathfrak{y})}$ は catenary でありかつ、 $\dim R[\mathfrak{y}]_{(m, \mathfrak{y})} = \dim R$

(10) $e(\mathcal{O}_L) = e(\mathcal{O})$ なる任意の m -primary ideal \mathcal{L} の \mathcal{O}_L に対して、 $\mathcal{L}\mathcal{O}_L^n = \mathcal{O}_L^{n+1} \quad \forall n \gg 0$ により e は multiplicity を表わす。

最後に Ratliff の lecture note 中にある素イデアル鎖に関する予想のうち主なものを書く。まず定義から：

定義 ring R が chain condition (略して c.c.) をみたす $\Leftrightarrow \forall \mathfrak{p}, \mathfrak{q} \in \text{Spec}(R), (\mathfrak{p} \supset \mathfrak{q})$
 $(R/\mathfrak{q})_{\mathfrak{p}/\mathfrak{q}}$ は s.c.c. をみたす

定義 domain R が H-domain

$\Leftrightarrow R$ の任意の高さ 1 の prime ideal \mathfrak{p} について $\dim R_{\mathfrak{p}} = \dim R - 1$

- (a) Chain conjecture: local domain の integral closure は, c.c. をみたす.
- (b) Depth conjecture: R は任意の local domain, $\mathfrak{p} \in \text{ht } \mathfrak{p} > 1$ は R の任意の prime ideal とするとき, $\mathfrak{p} > \mathfrak{p}'$, $\dim R/\mathfrak{q} = \dim R/\mathfrak{p} + 1$ をみたす R の prime ideal \mathfrak{q} が存在する.
- (c) H-conjecture: H-local domain は catenary.
- (d) Catenary chain conjecture: catenary local domain の integral closure は c.c. をみたす.
- (e) Normal chain conjecture: integral closure が f.c.c. をみたす local domain は, s.c.c. をみたす.

これらの予想の間の関係は, $(a) \Rightarrow (b) \Rightarrow (c) \Rightarrow (d) \Rightarrow (e)$ である.

(a) は, 小駒氏の例により成立しないことがわかった. (b) ~

(d) は今のところ解決していない. (b) ~ (d) はどれも興味深く面白い問題であるが, (a) が崩れたときのくらいの意味があるか疑問である.

(c) に関連して, Ratliff は [R] で次のことを示している.

命題 local domain (R, \mathfrak{m}) について

$$R \text{ が catenary} \iff \forall \mathfrak{p} \in \text{Spec}(R) \quad \text{ht } \mathfrak{p} + \dim R/\mathfrak{p} = \dim R$$

また [2] には、任意の prime ideal 子について、 $\text{ht } \mathfrak{P} + \dim R_{\mathfrak{P}} = \dim R$ が成立するが catenary (ない noetherian) Hilbert domain が構成されている。semi local domains については次の予想がある

Taut-level conjecture: R を $\text{ht } \mathfrak{P} + \dim R_{\mathfrak{P}} = \dim R$ $\forall \mathfrak{P} \in \text{Spec}(R)$ を満たす semi local domain とすると、 R は f.c.c. を満たす。

これについては、Taut-level conjecture \Rightarrow Catenary conjecture である。上の予想について、[3] に部分的な解がある。

命題 R を $\text{ht } \mathfrak{P} + \dim R_{\mathfrak{P}} = \dim R$ $\forall \mathfrak{P} \in \text{Spec}(R)$ を満たす semi local domain とすると、 R の maximal (ない任意の prime ideal 子) について、 $R_{\mathfrak{P}}$ は A.C.C. を満たす。

参考文献

- [1] I. S. Cohen, Length of prime ideal chains, Amer. J. Math. 76 (1954), 654-668.
 [2] K. Fujita, Some counterexamples related to prime chains in integral domains, Hiroshima Math.

- J. 5 (1975), 473-485.
- [3] S. McAdam and L.J. Ratliff, Semi local taut rings, *Indiana Univ. Math. J.* 26 (1977), 73-79.
- [4] M. Nagata, On the chain problem of prime ideals, *Nagoya Math. J.* 10 (1956), 51-64
- [5] M. Nagata, Note on a chain condition for prime ideals, *Mem. Coll. Sci. Univ. Kyoto* 32 (1959-1960), 85-90.
- [6] L.J. Ratliff, On quasi-unmixed semi-local rings and the altitude formula, *Amer. J. Math.* 87 (1965), 278-284.
- [7] L.J. Ratliff, On quasi-unmixed local domains, the altitude formula, and the chain condition for prime ideals (I), *Amer. J. Math.* 91 (1969), 508-528.
- [8] L.J. Ratliff, Catenary rings and the altitude formula, *Amer. J. Math.* 94 (1972), 452-466.